

# 令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b>	<b>2 友達への思いやり</b>	<b>3 道徳・心の教育の充実</b>
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
1) 一人一人の子どもを大切にしているという意識をもって教育を進めているが、約1割の保護者・生徒が不十分(「2」または「1」)であると評価している。学級通信や教育相談などを活用し、子どもたちの様子を伝えながら、保護者との連携を密にしていきたい。 2) 生徒・教職員とも子どもが友人と仲良くしていると考えているが、保護者が「4」と回答した割合が少なくなっている。この原因がどこにあるのか確認しながら教育に取り組んでいきたい。 3) 心の教育の充実について、「4」「3」の割合が保護者、教職員とも上がっている。更に指導体制を充実させていきたい。		

## ②確かな学力を育む教育の推進

<b>4 意欲的な学習態度</b>	<b>5 授業力向上</b>	<b>6 タブレット活用</b>
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
4) 意欲的な学習態度に関しては、「2」をつけた保護者・教職員が若干いる。勉強に意欲的に取り組めていないと考えている子どもが存在するということを謙虚に受け止め、一人一人の子どもたちへ更に目を向けていきたい。 5) 授業づくりの工夫に関して、保護者・生徒・教職員とも「3」「4」の割合が高い。 6) タブレットの活用に関しては、生徒の「4」の割合が高いが、「活用」という点で保護者の「4」の割合がやや低くなっている。これは、コロナ禍で保護者が学校におけるタブレット活用の場面を参観する機会が少ないことも影響していると考えられる。学校からこれまで以上に情報を発信していく必要があると考える。		

## ③健やかな体を育む教育の推進

<b>7 健康づくり</b>	<b>8 児童生徒理解</b>	<b>9 いじめや問題への対応</b>
子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。	学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。
7) 保護者・生徒に比べて、教職員が「4」と回答していない。これは給食指導を通しての生徒の偏食傾向の把握の結果であると考えられる。家庭にこの指導の内容をフィードバックしていく必要がある。 8) 教職員が子どものよさを見つけ、理解しているという設問に対して「2」をつけている保護者・生徒が一定割合いる点に注意したい。 9) 保護者の中に「2」の意見も約1割見られる。教師は生徒理解やいじめや問題への対応をすべての児童に対して行っているが「わが子が」理解・対応してもらえていない、と感じる人が少数ながら存在するという点を謙虚に受け止め、更に一人一人に目を向け、対応していきたい。		

## ④特別支援教育の推進

<b>10 学校の支援体制</b>	<b>11 共生社会を担う人材の育成</b>	<b>①子どもたちの身近な安全対策の充実</b>
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。	学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。
10) 学校では「支援を必要とする子どもの教育」について、特別支援教育推進委員会や校内研修の場などで共通理解を図っているため、「4」または「3」だけで100%を占めているが、保護者の「4」の割合が2割強に留まっている。支援を必要とする生徒への取り組み状況についての情報共有の方法を検討する。 11) 交流学級での経験を踏まえ、生徒はその意義について理解していることが結果からも伺える。 12) 年間指導計画に沿って安全教育を実施し、各種訓練等も充実を図っており、保護者・生徒・教職員ともに「4」「3」の評価をつけている率が高くなっている。		

## ⑤最適な学習環境の整備

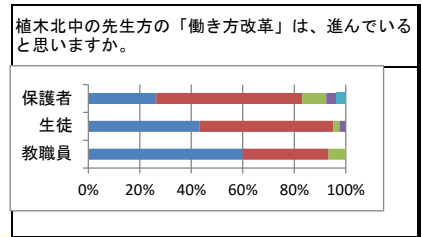
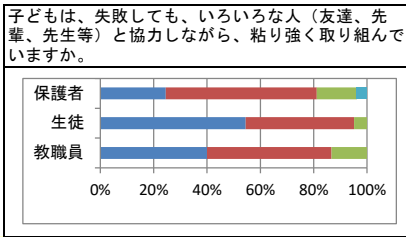
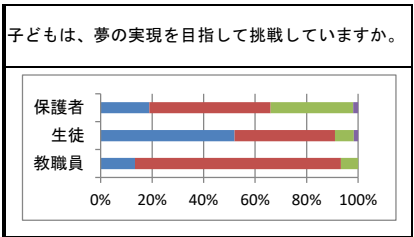
<b>13 施設・設備の安全管理</b>
学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。
13) 学校の施設・設備の整備に関しては、概ね達成されているとの評価結果が出ているが、三者ともほぼ同じ割合で「2」をつけている。予算面での工夫も考慮しながら改善を目指す。

## ⑥家庭・地域社会との連携強化

<b>14 教育方針・目標の理解</b>	<b>15 家庭や地域との連携協力</b>
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
14) 生徒・教職員に比べ、保護者の「4」の割合が低くなっている。コロナ禍の影響でPTA総会や懇談会などの機会が減ったことが影響していると考えられるが、集合型の行事以外に教育方針・教育目標を伝えていく機会を設ける必要がある。 15) 学校と家庭・地域との連携に関しても14と同様の結果が出ていることから、コロナ禍でのオンラインによる各種行事の実現ならびに連携強化が課題である。	

## ⑦本校の教育

<b>16 夢の実現へ挑戦する力</b>	<b>17 共に前進する力</b>	<b>18 働き方改革</b>
----------------------	-------------------	-----------------



16) 生徒が「4」と回答している割合が5割を超えているのに対し、保護者・教職員の「4」の割合が低くなっている。特に保護者では「4」と「3」の合計も6割程度に留まっている。学校において生徒が自らの夢や将来の希望について語っている内容等をこれまで以上に家庭と共有することで、保護者の理解も進むと思われる。17) 前記16と同様、生徒が「4」と回答している割合に比べ、保護者・教職員が「4」と回答している割合が低くなっている。「粘り強く取り組んでいるか否か」について、生徒と大人の感じ方の差について検討していく必要がある。18) 「働き方改革」の進捗について、教職員の実感ほど保護者の「4」の割合がないことに着目し、更なる情報共有を目指す。

### 来年度の具体的な取り組みについて

- 教育方針や教育目標については、さらに分かりやすく学級通信やPTA新聞などあらゆる機会を通して情報発信を行う。
- 毎時間の授業の充実のための教材開発を続けていくとともに、厳しい状況にある子どもの生活習慣の確立など、個に応じた学習のさらなる徹底を図っていく。
- 安全、食育、総合・教科学習についての情報の共有化をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。特に、食育については生徒向けの講話等の機会を確保する。
- 強力な感染症対策が必要となってくることを踏まえ、手洗い・うがいの確実な実行や、常にソーシャルディスタンスを意識した行動をとる等の基本的な生活習慣の確立を図る。
- 熊本市学力調査の結果を受けて、生徒の学力を詳細に分析し、ドリルパークの活用を軸にした、きめ細かな指導の工夫改善に努めたい。
- 「道徳」の授業の更なる改善のための校内研修や授業研究会の機会を持ち、職員一人一人が成果を実感できるような学びの場を創造する。
- 家庭学習の習慣を定着させるため、テスト前に限定していた学習計画の作成・実践の取り組みを長期的に行い、生徒の家庭での学習状態を継続的に把握する足掛かりとしたい。
- 学校現場で「働き方改革」が求められている意味について、教職員だけでなく、家庭や地域とも共有し、持続可能な学校を作り上げていく。

### 学校関係者評価

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、学校に向く機会がなかなかなかったが、数少ない訪問時の授業参観等で、子どもたちが楽しく学校生活を送っていることがよく伝わってくる。現在の学校が落ち着いて教育活動にあたっていることが分かる。
- 教員が教科指導等で生徒一人一人の特性に応じた教育活動の工夫を行っていることが分かる。授業に参加している生徒たちの表情がとてもいきいきしていた。
- 生徒たちが学校周辺であいさつをきちんとしてくれるので、生徒の様子がとても安定していると感じる。
- 学校保健委員会の取り組み等、とても素晴らしいものがある。ぜひとも今後の子どもたちの活動につなげてほしい。
- 学校での出来事等について、これまで以上に家庭・地域へ向けた発信をお願いしたい。